

課題名 地域のもりから学ぶ森林づくり「森林の生物多様性を学ぶ」

機関名 石狩地域森林環境保全ふれあいセンター 松本 誠

所属 定山溪中学校3年 高橋美咲 陰山紘太

1. 課題を取り上げた背景

森林は、二酸化炭素の吸収や森林から生産される木材の利用による炭素の貯蔵や化石燃料の使用削減を通じ、地球温暖化防止に貢献しています。また、木材等の林産物の供給、水源のかん養、山地災害の防止等の多面的機能や生物多様性の宝庫でもあります。中でも札幌市近郊の定山溪国有林は豊かで良質な水を育む「水源の森」として市民生活に不可欠な役割を果たしています。

今年度より定山溪の森林を更に、広く知ってもらうことや市民の貴重な財産として国有林など「水源の森」を次代へ引き継いでいくため、地域に根ざした森林環境保全活動を市民等と協働して「もりづくり」を行いながら貴重な森林資源について普及啓発を図ります。これらのことを目的として連合町内会、小中学校、NPO、観光協会、温泉旅館組合、大学、研究機関、企業、ボランティア団体、自治体出先機関等と連携し、奥定山溪の森林で「地域のもりから学ぶ森林づくり」活動を展開して行くことになりました。

2. 取組みの経過

市民など多様な人の目で観察することで地域の森に存在するさまざまな価値を改めて認識してもらい、見過ごされていたことや新たな森林づくりのアイデア、専門家の知見や手法を取り入れ、地域にあった固有の手法を探る森林づくりを取組むため1. 地域と森林とのかかわりを老人などから聞き取り過去の歴史を知り、人との多様なかかわりを積極的に進めること。2. 市民の多様な意見の中で専門家等と一緒に森林を調べ、知り、森林の生物多様性について学び、森林づくりのプロセスを共有して合意形成を図る。3. モニタリング・マニュアルを協働作成し自らがマニュアルで森林や植栽地の変化について実感が得られるモニタリングを行う。三つの目標を立て、活動することとしました。

市民や環境保全団体、NPO等と連携していくつかの森林づくり活動に興味を抱く地元団体と交渉を重ね大学、研究機関等と協働で森林づくり活動を実施する活動母体を立ち上げ固定メンバーが決まって行きました。

軌道に乗るまでの間は定山溪市民を主体に活動を行います。今後、地

域の市民へどう浸透するか模索して行きます。

3. 実行結果

定山溪中学校が参加した夏の森林教室では、研究者の指導をいただきながら、現地での観察や調査体験を通して森林と生息する生物の働きについて学びました。ピットフォールトラップを用いた地表性昆虫調査では、森林内と土場跡地でのオサムシ類の種類や個体数の違いを学びました。この調査ではトラップにトガリネズミがかかっており、予期せぬ動物の登場に生物の多様性を体感するとともに、探究意欲も高められました。中・大型の動物については自動撮影装置による調査方法を学びました。警戒心が強く夜行性で目につかない動物が多いなか、北海道在来種の多くがこの区域に生きていること、ミンクやアライグマといった外来種がこの奥地にまで侵入していることが写真からわかりました。その他、樹齢数百年と言われるミズナラの大木を前にヤケコゲタケなどの腐朽菌や着生したトドマツなどの幼木を観察したり、郷土樹種であるエゾマツやダケカンバが織り成す森林と豊かな土壌を生み出す生態系について、奥深い森の息遣いを感じながら学ぶことができました。

秋の森林教室では広葉樹4種の種子の採取とハリギリの根ざしを体験しました。実際に現地に木を植えることができ、その成長を楽しみにしています。採取した種子は学校に持ち帰り、処理後ポットなどに播種、現在雪の下で春の芽生えを待っています。この体験では、風に運ばれる種子の小ささや、その種が育ち大木になる生命力、自分が木を種から植えることができたこと、などに感動していました。

この他、自然環境・災害調査に使われているラジコンヘリコプターでの学校周辺の森林撮影など、地域の人とともに興味深く楽しい体験ができました。

この活動を通して生徒に学んで欲しかったことは、郷土をとりまく森が緑のダムとして大切な役割を持ち、そこに住むたくさんの生き物をささえていることを知り、そのかけがえのない森を守り育てる取組みに参加できる、という喜びを感じてもらうことでした。その願いは、十分に達成されたと感じています。さらに、生徒たちが多くの方々に接しお話を聞く中から、働く人たちの気構えや夢、先人の努力、個性が違うものがささえあって生きることの大切さなどを学びました。